

これからの高齢婦人の衣服を考える

ファッション・バリアフリーの普及

高間由美子（被服学）

1. はじめに

これまで1997年から1999年まで季節を通してどんな衣服を望み、どんな衣服を着用しているか、あるいは入手方法や衣服に対する希望や不満など、高齢婦人の衣服に関する諸問題の考察を行なってきた。

一方、1996年には既製服業界の高齢婦人向け既製服の生産状況と販売の実態を把握するためアパレルの地場産業、岐阜を中心にアンケート調査を行なった。

それらの調査結果から、既製服の多くの場合高齢者は満足できなくてもやむを得ず入手しているのに対して、既製服業界では高齢者向け衣服の必要性を認めつつも、高齢者を高齢者扱いしなくてもよく売れているので実際には高齢者向け衣服の生産に着手していないということがわかった。

そこで今回は、これまでのアンケートをもとに消費者側と生産者側、つまり衣服を選ぶ高齢者と衣服を提供する企業にそれぞれ焦点をあて、今後の望ましい高齢者衣服のあり方について検討し、対策を見出す提言をした。

2. 調査の概要

調査の方法

いずれの調査もアンケート法によって行なった。調査目的、調査対象、実施期間アンケートの配布数及び有効回答数は以下の通りである。

アンケート【A】 高齢婦人の夏物衣服に関する調査

調査の目的 夏物衣服を通して高齢者の要望、身体的条件、好み、用途などを把握することにより消費者の満足度の向上を図る上での指針を得ることを目的とする。

調査対象 無作為抽出法により愛知県、岐阜県内に居住する50歳以上の女性167名を抽出。

実施期間 1997年7月下旬から8月上旬

配布数 167

有効回答数 163

アンケート【B】 高齢婦人の冬物衣服に関する調査

調査の目的 冬物衣服を通して高齢者の要望、好み、既製服への対応などを把握することにより高齢者衣服の充足を計ることを目的とする。

調査対象 無作為抽出法により愛知県、岐阜県内に居住する50歳以上の女性167名を抽出。

実施期間 1998年1月下旬

配布数 167

有効回答数 167

アンケート【C】 既製服業界への調査

調査の目的 高齢者衣服に対する企業の生産状況及び販売の実態を探ることを目的とする。

調査対象 岐阜アパレルメーカーで婦人服

を生産している会社
 実施期間 1996年8月上旬から下旬
 配布数 200社
 有効回答数 93社

3. 高齢者が求める既製服とは

I アンケート【A】²⁾【B】³⁾ について

(1) 入手方法について

入手の区分は図1のように既製服、オーダー（注文服）、手作りなど、4項目である。年間平均すると、既製服を購入する割合は80.2%と高率である。高齢者の約8割が既製服に依存していることから、既製服業界の高齢者衣服への対応は必要不可欠ということになる。次にオーダーは4.8%と極端に少ない。これは昔にくらべて既製服が豊富に出回るようになったこと、女性の社会進出により時間と価格のかかるオーダー志向が減少し手軽な既製服に移行したことなどの理由が挙げられる。

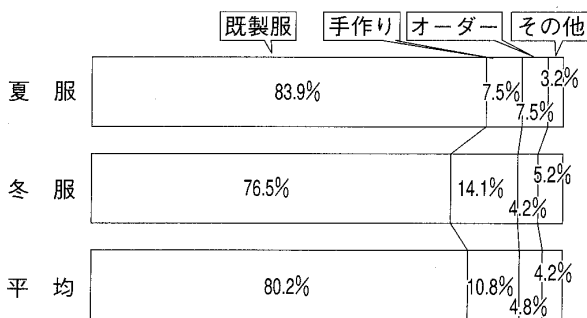


図1 入手方法は

現に、布地を扱う店が最近特に減少している。またそれにともない仕立て屋の減少、附属品店の減少などにも変化がみられる。たとえば名古屋の某百貨店でオーダー仕立ての注文をすると9月現在（1999年）の仕立て代は、冬のスーツで13万円台から、夏のスーツは11万円台から、ワンピースは10万円台から、スカートでも5万円はかかる。ずいぶん高い仕立て代である。その上、布地代、附属品代を別途に支払えば、スカートでさえ安く見積も

っても7~8万円になる。それに注文してから仕上りまでの日数は30~40日かかる。これらを考慮すれば決して手軽に入手できるとまではいかない。では、仕立て代不要の手作りはといえば、夏服で7.5%、冬服になると14.1%と少数ではあるが増加傾向にある。自分の好きな生地で手作りを楽しむ手作り志向派が残っているとはうれしい結果である。尚、冬服の手作り増加の原因は夏服に比べ冬服の方が手作りの良さが際立ち、しかも手作りした分だけ安く出来上ることから、いわゆる作り甲斐があると考えられる。

最後の項目「その他」では人からの譲渡、あるいはリサイクルの活用やリフォームによる再利用などが予想される。

(2) 購入先

既製服の購入先は、図2のようにデパートが32.5%、ブティックが26.4%、スーパーでは17.7%、小売店は15.3%となっている。デパートがもっとも多い理由としては品数が豊富で、試着の際ファッションアドバイザーによるアドバイスもあり、又、売場面積が広くゆったりと品定めができる利点があげられる。さらに、デパートに対する信頼度の高さなどからも当然の結果といえよう。そのほか交通の便も大切な要因である。車を運転する高齢者ならともかく、ちょっと買い物に出掛ける場合に公共交通機関の乗り継ぎができればとても助かる。下車した先がデパートであれば、なおさら便利である。

次にブティックであるが、ブティックは店主が顧客名簿を作成し、客の好み、手持ちの服、生活パターンなどを熟知している。そのため客はそこへ足を運びさえすれば、ある程度の満足度が得られる。短所として好みがかよってきたり、一軒かまえている分だけちょっと割高になる恐れがある。その点スーパーなどの量販店は安価に購入でき人気がある。またスーパーでの購入はデパートやブティックのように構えなくても気軽に入店しやすい利点が、根強い人気の17.7%の結果とな

る。次に小売店は近所の便利さがうけているように思われる。近所の誼ということもあろうが井戸端会議風の品定めも予想される。これらにくらべアパレルの地場産業の町にありながら問屋街での購入が少ないのは意外な感がある。近年素人さんお断りの店も少なくなったとは言え、やはり個人客は少ないようである。各店によって扱う商品が異なり一堂に見廻すことができないことも客足が伸びない理由のひとつかもしれない。当然ながら、高齢者の出足も鈍る原因となる。

最後に、「その他」の項目で通販と書き加えてあった回答が目立った。いわゆる通信販売のことである。居ながらにして買い物ができるため最近とくに利用が増える傾向にある。自宅で品質表示を始め素材名、洗濯表示、サイズなど納得のいくまでカタログによって品定めができる。まして視力や聴力の低下が気になる高齢者にとってカタログショッピングは便利である。衣服を手にすることもなく、試着ができないため注文には不安もあるが他方で返品しやすくなっているため利用客も多くなっている。居ながらにして買い物ができるシステムは高齢者でなくとも非常に便利な方法である。

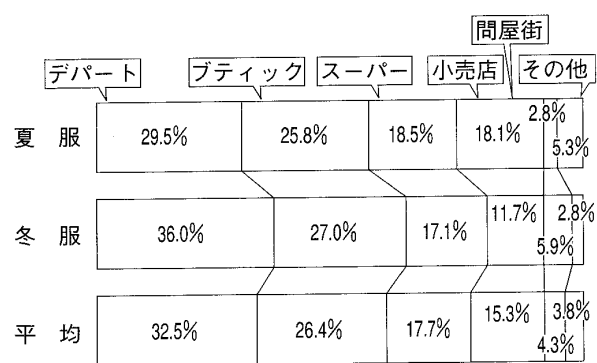


図2 どこで買ったか

(3) 購入する既製のメーカーと、服を選ぶときのポイントについて

衣服を購入する際、愛用している洋服のブランド、つまりメーカーを決めているかとの設問に対して図3のように決めていないとの回答が75.6%あった。これはその時の気分で

気に入った衣服を購入する、あえてメーカーに拘わりはない、あるいはただ単に無頓着というだけかもしれない。いずれにせよこの設問では購入者の気持ちまでは計り知れないが、メーカーには拘わらず入手している高齢者が多いことがわかる。今日の高齢者が、今の若者のように少々無理をしてでもこのメーカーのこの服が着たいと思った頃とは違い、ほとんどの高齢者が楽な服、洗濯しやすい服、好みの色の服、体型をカバーする服、着脱しやすい服などを挙げていることは図4からも窺える。つまり、季節に応じた衣服、身体的条件、着用目的に合致した衣服、あるいは機能的な衣服というように快適な着心地を重視するなど、高齢者の着衣意識がはっきりしている。そのためメーカーを決める必要はなく、高齢者の多様な着用目的のみを優先させる既製服が必要ということになる。

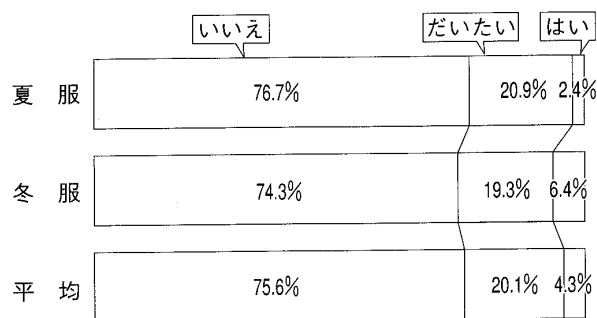


図3 メーカーは決めているか

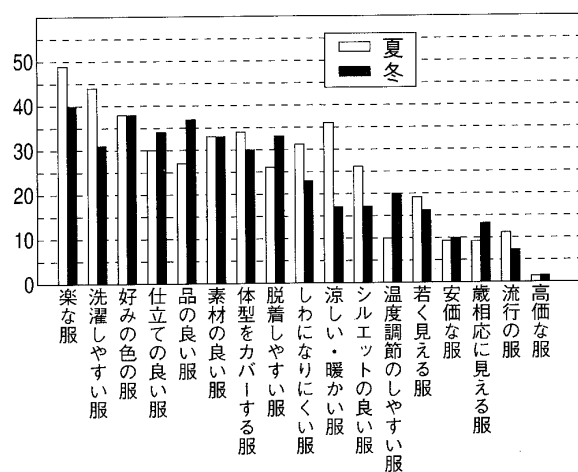


図4 服を選ぶときのポイント (複数回答)

(4) 試着について

図5のように試着をする人は65.1%、しな

い人は27.3%、ときどきの人は7.6%である。また冬服と夏服の試着度は冬服は75.5%に対して夏服は55.9%と減少している。

これは図6から夏にはTシャツ、ブラウスなどの着用が多く、体型に及ぼす影響が少ないため、体にあててみておおよその見当をつければ試着をしなくても入手可能である。

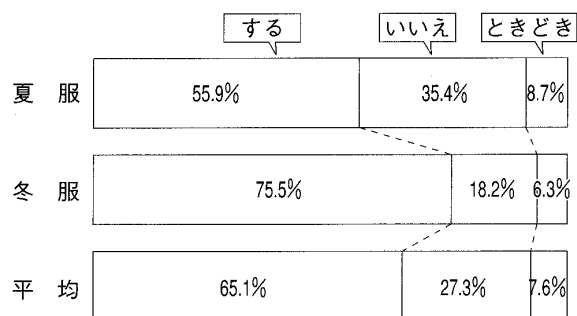


図5 試着はしますか

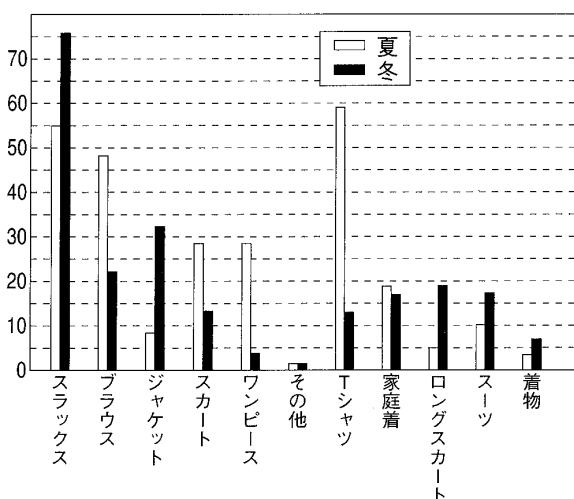


図6 主にどんな服を着るか (複数回答)

それにひきかえ冬にはスラックス、ジャケット、ロングスカート、スーツなどの着用が多くなる。しかも前報³⁾で述べたように肌着の着用や重ね着の効果が暖かさを守ると答えた高齢者が多く、夏服のように試着をしなくてもおおよその見当がつくというわけにはいかない。したがって冬物は試着が必要になる。また既制服を選ぶ時はサイズ不足、体型に合わないなどの不満が多く、試着は大切である。これらのことから衣服を選ぶ時には試着を心掛け、失敗を最小限にいとめることが衣服への無駄をなくし、快適な衣生活への近道ともなる。

(5) 着用するサイズについて

図7からゆったりめのサイズを着用する人は73.9%と圧倒的に多く、図4に示したように楽な服、体型をカバーする服が上位を占めていることなどからも、ゆったりサイズの衣服に人気が集まっていることがわかる。これは加齢に伴ない体型の変化が進み標準体型用の衣服が合わなくなることに原因がある。図8は、高齢者の背面形状を主とした分類⁷⁾である。これらの体型の変化に合わせていくつかのタイプの衣服が提供されていない現状では、ゆったりめの衣服を選ばざるを得ないことになる。もちろん欠点をカバーする衣服を選ぶことは大切であるが、それ以前に着やすい、動きやすい、安全性を考慮したデザインなど、高齢者の低下した機能を補い保護をする役割を優先しなければならない。それには高齢者が体型に合ったサイズの衣服を選ぶことができるように、業界に高齢者の加齢に伴なう体型変化に対応した衣服を提供することを望みたい。

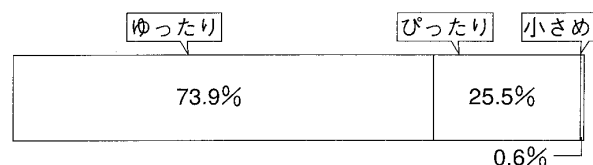


図7 着用のサイズは

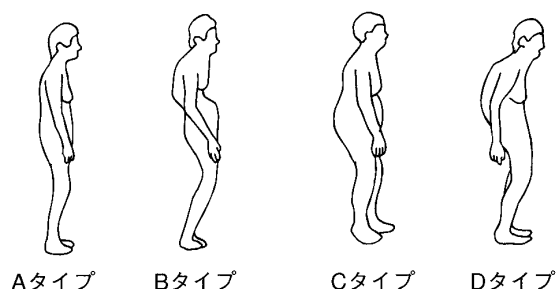


図8 高齢者の背面形状を主とした分類 (ライフスタイルと衣服⁷⁾より引用)

(6) 見立てる人について

衣服を購入する際見立てる人があるか否かを探してみると図9のようにひとりで決めるが33.9%、店の人に見立ててもらおうが26.9%と過半数の高齢者がひとりで買い物に行く姿が目立つ。友人と一緒に14.4%、娘と一緒に

に15.2%、さらに夫に見立ててもらう人は4.7%とごく少数になる。衣服を選ぶ時の楽しさがおしゃれにもつなぐと考えると見立ててもらう人の有無はおしゃれ意識を大きく左右すると思われる。

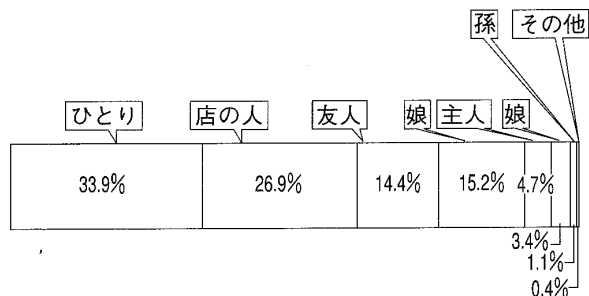


図9 誰に見立てていただきますか

また、図10に示すようにファッションに関心のある年齢が70歳未満までは高い率を占めているにもかかわらず、70歳以上になると急激に減少し、身だしなみ程度と変化する。衣服に対する関心度が、70歳を境目に減少していく原因には衣服を見立てる人との関わりが深く関係しているのではないかと考えられる。

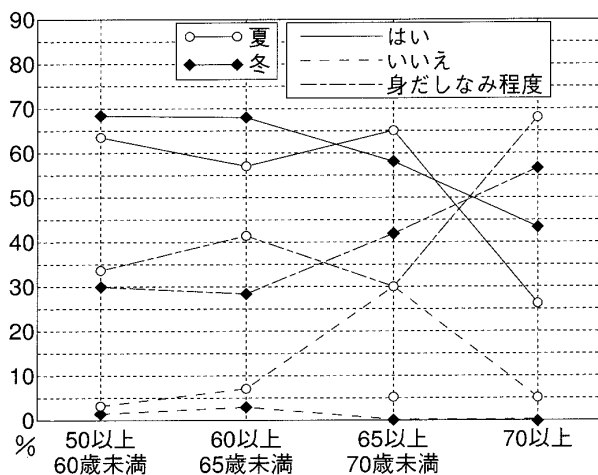


図10 ファッションに関心がありますか

(7) 好みの基準について

図11のように好みの基準は年相応とする人が48.8%と全体の約半数を占めている。この年相応とは年齢につりあうこと、ふさわしいことの意である。年齢にふさわしい衣服を身につければ安心するということであろうか。

加齢変化に伴ない元気さ、活動範囲、おしゃれの度合い、趣味などライフスタイルの個人差はあるはず。年相応という習慣にふりまわされないおしゃれを望みたい。

また、地味めを好む人は21.6%ある。年齢よりもさらに老けていくと思われる。これではおしゃれは楽しめない。前報³⁾に記したように若年者は「年相応だからと言って地味な服はやめて欲しい。」「明るい色を着て欲しい。」「高齢者の衣服はみんな同じに見える。」など地味、暗い、同じを指摘している。

これらのことから高齢者の好みには高齢になるほど地味な色、年をとったら地味めという決めつけた潜在意識がうかがわれる。高齢になればなるほど美しさをモットーに明るく清潔に装って欲しい。なぜならば人と人とのつながりを持つ上で美しく装うことは大切な行為のひとつであると考えからである。

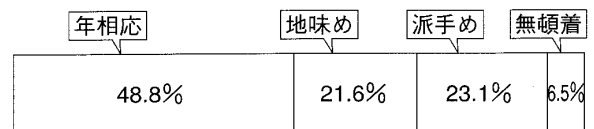


図11 好みの基準は

4. 高齢者から見る既製服への不満

アンケート【A】、【B】の調査で高齢者が既製服を選ぶときの不満点を記述式で尋ねた。ここでは65歳以上の高齢者の回答について述べる。

- 身長152、胸囲92、ウエスト78の13号サイズだが上着丈は長く、スカートはきつくて入らないためサイズに合った号数で選べない。
- ズボン丈を必ず直さなければならないので身長別のズボンが欲しい。
- 高齢者向き衣服が少ない。
- 高齢者向きにはデザインの似かよった衣服が多い。
- 年寄りの着るしゃれた服がない。
- 好みに合う衣服が少ない。

- 太っているため着られる服が少ない。
- 種類、サイズ共に数が少ない。
- 胸囲、着丈、袖ぐりが合わない。
- 体型がくずれているため上下揃いになると下衣がきつい。
- 目方の重い服は困る。
- 見た目は暖かそうでも動きづらい服は困る。
- 9号サイズは多いが11号、13号サイズは少ない。
- 動きにくい服が多い。
- サイズの表示がわかりにくい。
- 年に応じた服を捜すと地味すぎて不満。
- とにかく体型に合わない。

これらは加齢に伴う体型変化や、身体機能の低下に対応できる既製服が少ないことを示すものであり、さらにデザインや数量にも問題があることを高齢者自身が指摘するものとみることができる。

5. 既製服業界の対応

I アンケート【C】¹⁾について

(1) 高齢者向け衣服の必要性について

表1のように既製服を生産（販売）している企業に対して高齢者向け衣服の必要性を尋ねた結果、絶対必要17.2%、必要41.9%、やや必要30.1%、必要ない10.8%であった。このことから企業は高齢者向け衣服の必要性を多に感じていることがわかる。その理由として①今後の高齢社会を迎え必要を感じている、②体型の変化に合わせたパターン研究が必要、③サイズの見直しの必要性、などを挙げている。必要ないとする理由は、高齢者を対象にせずともミセスをターゲットに商品開発すれば売れるのであえて高齢者衣服は必要ないとするものであった。

(2) 高齢者向け衣服の生産状況について

前項の設問に引き続いて各企業が高齢者用衣服を生産しているか否かを尋ねた。表1の

ように48.4%が生産していると回答をしたのに対して51.6%が生産していないとの回答であった。つまり、企業人としては高齢者用衣服の必要性を感じつつも生産するには至っていない会社が多いということがわかった。

表1 高齢者向け衣服の必要性と生産状況

		現在、高齢者向け衣料を生産していますか					
		いいえ		はい		合計	
高齢者向け衣料の必要性	絶対必要	3社	3.2%	13社	14.0%	16社	17.2%
	必要	19社	20.4%	20社	21.5%	39社	41.9%
	やや必要	19社	20.4%	9社	9.7%	28社	30.1%
	必要ない	7社	7.6%	3社	3.2%	10社	10.8%
	合計	48社	51.6%	45社	48.4%	93社	100.0%

(3) 高齢者向け衣服の対象年齢について

次に高齢者向け衣服を生産している会社に、その製品の対象年齢を尋ねた結果を表2に示す。50歳以上38.5%、50歳以上60歳未満が28.8%、60歳以上70歳未満が26.9%、70歳以上は5.8%であった。つまり、高齢者用衣服の生産はしているものの対象年齢は50歳以上60歳未満がもっとも多く、これでは高齢者用衣服を生産しているとは言えない現状である。このため60歳以上の高齢者には衣服不足がみられるということになる。

表2 はいと答えの方に

【1】製品の対象年齢は何歳ですか（複数回答）

50歳以上	20社	38.5%
50以上～60歳未満	15社	28.8%
60以上～70歳未満	14社	26.9%
70歳以上	3社	5.8%
合計	52社	100.0%

表3

【2】高齢者向け衣料は全体の製品のうち何パーセントにあたりますか

5%以下	2社	4.4%
5以上～10%未満	2社	4.4%
10以上～20%未満	11社	24.4%
20以上～30%未満	7社	15.7%
30以上～40%未満	5社	11.1%
40以上～50%未満	8社	17.8%
50%以上	10社	22.2%
合計	45社	100.0%

また対象年齢を設問した会社での高齢者用衣服の生産は全体の何%を占めるかを尋ねた結果を表3に示した。一番多いのは10%以上20%未満で全体の24.4%であり、次に50%以上が22.2%、40%以上50%未満が17.8%と続く。これにより高齢者用衣服を生産している会社の生産状況は全製品の2割～5割程度であることがわかった。これは量的には必ずしも少ないとはいえない。しかし、高齢者の指摘にもあるように、対象年齢とそれに対応したデザインの検討が早急に望まれる。

(4) 今後の商品化予定について

次に高齢者衣服を生産（販売）していない会社に今後の商品化予定の有無を尋ねた。表4に示すように商品化予定のない会社が75.0%、ある会社は16.7%、検討中が8.3%という回答が得られた。予定ありとする会社では「2年以内」に商品化するとの回答がもっとも多かった。逆に、商品化予定のない会社の36社に今後の方針を尋ねたところ表5のように現状維持が66.7%、他社の様子を見ながら19.4%、リスクが大きいので予定していないが5.6%であった。いずれの場合も商品化予定のない理由としては10～20年後も高齢者の衣服に対する意識がわからない、あるいはファッション性や感性が重要視されれば高齢者を別扱いする必要はないことを挙げている。なお、商品化予定はないが高齢者と身障者を対象に商品開発をしている、体型を考慮

表4 いいえとお答えの方に

【1】商品化の予定の有無

あ	る	8社	16.7%
な	い	36社	75.0%
検	討	4社	8.3%
合	計	48社	100.0%

表5

【2】商品化の予定のない理由は

現状商品の維持	24社	66.7%	
他社の様子を見てから	7社	19.4%	
リスクが大きい	2社	5.6%	
その他	3社	8.3%	
合	計	36社	100.0%

したパターンを考える必要があるとの前向き意見の記載があったことに注目したい。

(5) 高齢者の着用衣服と企業の生産状況

高齢者の着用する衣服とその生産状況について比較検討するため図12を作成した。それによって現在高齢者が必要としている衣服の必要な量が満たされているか否かを探ってみる。

この図からスラックスを着用する高齢者の割合が多いことがわかる。それに対して企業のスラックス生産は著しく少ない。これでは消費者は好みのスラックスを選ぶことさえ困難である。その他夏物のブラウス、スカート、ワンピースなどの不足が目立つ。それに比べ、冬物のブラウス、ジャケット、スカートはほぼ満たされていると考えてよい。ただし、これらの結果は今回調査を依頼した地域の店頭の商品で、すべてが岐阜アパレルの製品であるとは限らないことを考慮に入れなければならない。いずれにしても必要とされている衣服が必要な量だけ供給されていない状況から、少なくとも地場産業の岐阜アパレルには不足衣服が生じないような生産を望みたい。

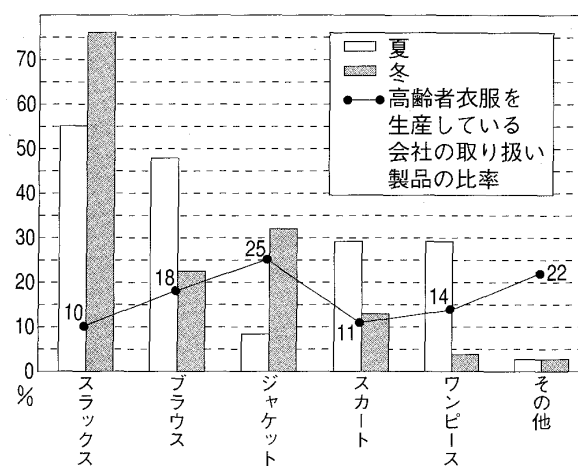


図12 主に着る服と取り扱い製品との比較の差異

6. ファッション・バリアフリーの普及

高齢婦人の衣生活の動向調査からアパレル業界高齢者向けの衣服提供は決して望ましい状況とはいえないことがわかった。高齢者の

増加を認識しつつも高齢者衣服の必要性を認めていない企業が多くあった。つまり、高齢者を高齢者と認識していないことから、高齢者の望む衣服が提供されていないことがわかる。一方、高齢者はその生活実態に即した衣服を選択する過程で、身体条件などに合ったものを求めている。とりわけ既製服の利用者が多い現状からみれば企業による高齢者向け衣服の充足に対する期待は大きい。

1998年8月のGFF（岐阜ファッションフェア）のノーマライゼーションコーナーでは高齢者、障害者のためのファッション市場が明らかにされ、それらの商品はきわめて少ないことがわかってきている。（図13）

このように必要とされている衣服が提供されていない現況から、双方のギャップを少しでも埋めるための対策としてバリアフリーの普及を考えたい。

なぜならば図13のような境目を取り除き健常者同様、高齢者、障害者にとって好ましい衣服が提供され快適な衣生活が営まれることを望みたく、そのための提言を試みることにする。

【現在は高齢者・障害者のためのファッション市場がありません】

	動 スポーツ 仕事・動作	起 日常生活 立ち姿勢	寝 睡眠 寝た姿勢	
健常者	○	◎	○	一般市場 商品の供給 過剰状態 介護市場 ごくわずかに 高齢者介護用 衣料に存在する 障害者市場 商品として 存在しない
高齢者	×	△	△	
障害者	×	×	×	

○市場がある
◎飽和状態
△不十分だがある
×市場がない

図13 GFF：ノーマライゼーション・コーナー⁸⁾

①オーダーの奨めとリフォームの対応

身体的機能の低下に合わせて個別にオーダーやリフォームの対応をする。オーダーの場合は個々の身体的条件に合わせ、依頼者とコミュニケーションを計りながら衣服を製作す

る。又、リフォームの手段としては商品に縫い代を多く取り、リフォームのしやすいような縫製工程で組み立て、しかも共布の添付をするなどリフォーム性を高めるような製品の販売を促進する。

②リサイクル衣料の活用

リサイクル衣料を持ち寄り、あらたに高齢者衣服に作り変えたり、あるいはリフォームをすることにより効率の高い活用をする。

③販売フロアの設置場所

高齢者向け衣服を特別扱いすることなく、これまでのような売り場の奥の方という暗いイメージから脱却し、健常者用と同じ売り場に陳列し販売できれば購買意欲の増加にもつながるであろう。

④着脱しやすい衣服

自分で衣服を着脱することは、高齢者の自立につながることから高齢者自身が自分で着脱することを条件に考え、ボタンのかけやすい衣服、マジックテープの利用、伸縮性の布のある使用や部分扱いの工夫などデザイン、パターン、素材を考慮する。

⑤高齢者の生活環境に即した衣服

これまでの環境を継続し得る衣服の提供が高齢者に安心感を与えると考える。高齢者向きとされる、しかし着慣れない衣服を無理矢理着せるのではなく、着慣れた衣服で生活できるデザインの工夫が必要である。たとえばスカートをはき慣れている人にスラックスを強要するのではなく、はき慣れているスカートにひと工夫したデザインを考えたい。

7. おわりに

高齢者にとって衣服は毎日の生活を安全かつ快適に営む上で重要な意義を持っている。加齢変化に伴う着やすい衣料は誰もが必要

としているものであり、特別なことではない。しかし、これまでのアンケートを通して検討した結果、衣服を提供する生産者側とそれを着用する消費者側とは相互の意識に大きなズレが生じていることが指摘できる。

すなわち、高齢者の多くは既製服に依存しているにもかかわらず、その既製服は高齢者自身の不満が残るものをやむを得ず着用しているのが実状で、多くの高齢者は気に入った衣服を入手できていないのである。高齢者はデザインの選択もさることながら、体型変化、身体的機能の低下などに対応した身体に合った衣服、動きやすい衣服、あるいは購入と同時にすぐ着られる衣服（直しのない既製服）を求めている。

一方、企業は高齢者衣服の必要性は認めてはいるものの、高齢者自身の体型の特徴に合った衣服の提供には至っていないのが現況である。もちろん今後開発すべき衣服への認識や開発の試みはあるものの、実現にはほど遠い。会社自体が今後の方針を見直す中で取り組みがなされないと進展はみられない。このようなことから既製服業界には高齢者向けの衣服に積極的に取り組み健常者との境界線、つまりバリアフリーの普及につながる高齢社会にそなえた衣服の提供がなされるような衣料環境の整備を望みたい。とくに、加齢変化に伴う衣生活の改善に多大な効果をもたらすバリアフリーの導入を期待したい。尚、企業には現在の利益を追求するだけでなく将来に向けて高齢者向け衣服の要望を取り入れることを企業戦略として前向きに検討されることをお願いしたい。

また敢えてバリアフリーという言葉を使わずして快適な衣生活が営まれる高齢社会を迎えることができればと考える。

今後は更にバリアフリーにかかわりながら加齢に伴う衣生活をみつめ、研究の歩をすすめたい。

謝 辞

1996年のアンケートからこれまで毎年調査を進めてきましたお陰でなんとか本研究まで遂行できました。これもひとえにご理解、ご指導を賜りました学園長 神谷みゑ子先生、元奈良女子大学教授 相川佳予子先生（現、広島女子大学）そしてアンケート調査に多大なご協力をいただきました皆様方及び岐阜アパレル企業の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 高間由美子：高齢婦人の既製服—その実態と望むもの—、東海女子短期大学紀要第23号、pp.59-65、1997
- 2) 高間由美子：高齢婦人の夏物衣料に関する一考察、東海女子短期大学紀要第24号、pp.39-49、1998
- 3) 高間由美子：高齢婦人の冬物衣料に関する一考察、東海女子短期大学紀要第25号、pp.13-23、1999
- 4) SUSAN M.WATKINS：快適な衣服を求めて、関西衣生活研究会、1998
- 5) 田中千代：服飾辞典、同文書院、1991
- 6) 緒方道彦：高齢化社会と家庭生活、(財)九州大学出版会、1987
- 7) 樋口ゆき子：衣生活学、朝倉書店、1993
- 8) GFF：ノーマライゼーション・コーナーに掲示、岐阜県ノーマライゼーション・ファッション推進委員会、1997.8.

—家政学科 被服—

本研究によるアンケートの設問事項を抜粋する。

アンケート【C】

東海女子短期大学紀要 第23号 1997年

高齢婦人の既製服に関するアンケート 1996年8月

以下の質問の該当するものに○印をつけて下さい。

〔お答え頂く前に〕

- I 貴社の専門 1. 婦人服 2. 子供服 3. 紳士服
- II 貴社製品（販売）の対象者 1. ヤング 2. ミス 3. ミセス 4. 中高年 5. シルバー
- III 貴社の扱う製品 1. ブラウス 2. ジャケット 3. ワンピース 4. スカート 5. スラックス 6. その他 ()
- IV 解答者の性別 1. 男 2. 女
- V 解答者の年齢 1. 25歳未満 2. 25以上～35歳未満 3. 35以上～45歳未満 4. 45以上～55歳未満 5. 55歳以上

〔質問事項〕

問1. 高齢者用衣服の必要性はありますか。

- 1. 絶対必要 2. 必要 3. やや必要 4. 必要ない 5. 手持ちの服で充分
- その理由を簡単に述べて下さい。

問2. 現在貴社では高齢者向け衣服を生産（販売）していますか。

- 1. はい 2. いいえ 3. その他 ()

1. の「はい」とお答えの方にお聞きします。

(1) 製品の対象年齢は、おいくつですか。

- ① 50歳以上 ② 50以上～60歳未満 ③ 60以上～70歳未満 ④ 70歳以上

(2) 貴社製品（販売）のうち、高齢者向け衣服は全体の何%にあたりますか。

- ① 5%以下 ② 5以上～10%未満 ③ 10以上～20%未満 ④ 20以上～30%未満

- ⑤ 30以上～40%未満 ⑥ 40以上～50%未満 ⑦ 50%以上

(3) 取り扱い製品を多い順に選んでください。

- ① ブラウス ② ジャケット ③ ワンピース ④ スカート ⑤ スラックス ⑥ その他 ()

番号						
----	--	--	--	--	--	--

2. の「いいえ」とお答えの方にお聞きします。

(1) 今後、商品化の予定がありますか。 ① ある ② ない

(2) 「ある」とお答えの方、何年先をお考えですか。

- ① 2年以内 ② 2以上～3年未満 ③ 3以上～4年未満 ④ 4以上～5年未満 ⑤ 5年以降

(3) 「ない」とお答えの方に。

- ① 現状維持 ② 他社の様子を見てから ③ リスクが大きい ④ その他 ()

アンケート【A】

東海女子短期大学紀要 第24号 1998年

高齢婦人の夏物衣料に関するアンケート 1997年8月

〔質問事項〕

問1. ファッションに関心はありますか。 1. はい 2. いいえ 3. 身だしなみ程度

問2. あなたは自分をおしゃれだと思いますか。 1. はい 2. いいえ 3. まあまあ

問3. 夏は主にどんな服を着ますか。

- 1. ブラウス 2. ジャケット 3. ワンピース 4. スーツ 5. スカート 6. ロングスカート
- 7. スラックス 8. 家庭着 9. Tシャツ 10. スポーツウエア 11. 着物 12. その他

問4. 上記の夏服の入手方法はどれですか。

- 1. 既製服 2. 注文服（オーダー） 3. 自家製服（手作り） 4. その他

問5. 上記の質問で既製服に○印をつけた方にお尋ねします。

①気に入った既製服でしたか。

- 1. とても気に入った 2. まあまあ気に入った 3. 着られればよい程度 4. 気に入らなかった

②どこでお買い求めですか。

- 1. デパート 2. プティック（専門店） 3. スーパー 4. 近所の小売店 5. 問屋街 6. その他

③既製服のメーカーは決めていますか。

- 1. はい 2. いいえ 3. だいたい決めている

④試着はしますか。

- 1. する 2. しない 3. ときどき

⑤見立てていただく方は。

- 1. 店の人 2. 主人 3. 娘 4. 孫 5. 嫁 6. 友人 7. ひとり 8. その他

⑥既製服を選ぶときにどんな点が不満ですか。お聞かせ下さい。

[]

問6. 手持ちの夏服についてお尋ねします。

①着用するサイズは。 1. ぴったり 2. ゆったりめ 3. 小さめ

②自分の好みは。 1. 派手め 2. 地味め 3. 年相応 4. 無頓着

③自分の好きな色はどれですか。

これからの高齢婦人の衣服を考える

1. 赤 2. 黄 3. 緑 4. 青 5. 紫 6. 茶 7. ピンク 8. 白 9. グレー 10. 黒
- ④服を選ぶときのポイントは、
1. 楽な服 2. 着脱しやすい服 3. 涼しい服 4. 温度調節のしやすい服 5. 品のよい服
6. 流行の服 7. 仕立ての良い服 8. 素材の良い服 9. シルエットのきれいな服
10. 体型をカバーする服 11. 若くみえる服 12. 高価な服 13. 好みの色の服 14. 洗濯しやすい服
15. しわになりにくい服 16. 年相応にみえる服 17. 安価な服

アンケート【B】

東海女子短期大学紀要 第25号 1999年

高齢婦人の冬物衣料に関するアンケート 1998年2月

〔質問事項〕

- 問1. ファッションに関心はありますか。 1. はい 2. いいえ 3. 身だしなみ程度
- 問2. あなたは自分をおしゃれだと思えますか。 1. はい 2. いいえ 3. まあまあ
- 問3. 冬は主にどんな服を着ますか。
1. ブラウス 2. ジャケット 3. ワンピース 4. スーツ 5. スカート 6. ロングスカート
7. スラックス 8. セーター 9. カーディガン 10. ジャンパースカート 11. キュロットスカート
12. ベスト 13. 家庭着 14. Tシャツ 15. ジャージー (上下) 16. トレーナー 17. 着物 18. その他
- 問4. 上記の冬服の入手方法はどれですか。
1. 既製服 2. 注文服 (オーダー) 3. 自家製服 (手作り・手編み) 4. その他
- 問5. 上記の質問で既製服に○印をつけた方にお尋ねします。
- ①気に入った既製服でしたか。
1. とても気に入った 2. まあまあ気に入った 3. 着られればよい程度 4. 気に入らなかった
- ②どこでお買い求めですか。
1. デパート 2. プティック (専門店) 3. スーパー 4. 近所の小売店 5. 問屋街 6. スポーツ店 7. その他
- ③既製服のメーカーは決めていますか。 1. はい 2. いいえ 3. だいたい決めている
- ④試着はしますか。 1. する 2. しない 3. ときどき
- ⑤見立てていただく方は。 1. 店の人 2. 主人 3. 娘 4. 孫 5. 嫁 6. 友人 7. ひとり 8. その他
- ⑥冬物の既製服を選ぶときにどんな点がご不満ですか。お聞かせ下さい。
- 〔 〕
- 問6. 手持ちの冬服についてお尋ねします。
- ①着用するサイズは。 1. ぴったり 2. ゆったりめ 3. 小さめ
- ②自分の好みは。 1. 派手め 2. 地味め 3. 年相応 4. 無頓着
- ③自分の好きな色はどれですか。
1. 赤 2. 黄 3. 緑 4. 青 5. 紫 6. 茶 7. ピンク 8. 白 9. グレー 10. 黒
- ④服を選ぶときのポイントは、
1. 楽な服 2. 着脱しやすい服 3. 暖かい服 4. 温度調節のしやすい服 5. 品のよい服 6. 流行の服
7. 仕立ての良い服 8. 素材の良い服 9. シルエットのきれいな服 10. 体型をカバーする服 11. 若くみえる服
12. 高価な服 13. 安価な服 14. 好みの色の服 15. 好みのデザインの服 16. 洗濯しやすい服
17. しわになりにくい服 18. 年相応にみえる服 19. 軽い服 20. その他